

## 消化器内視鏡業務

◎榛葉 由佳<sup>1)</sup>  
磐田市立総合病院<sup>1)</sup>

## 【はじめに】

臨床検査技師（以下技師）のタスク・シフト/シェアの推進が進められているなか、当院では平成24年度より消化器内視鏡業務に参入している。今回、我々は当院の技師の内視鏡業務参画における経緯、体制、教育体制、業務内容等を紹介する。

## 【経緯】

平成24年度より当院の看護師不足緩和のため消化器内科部長からの要請をうけ内視鏡業務に参入した。1名新規採用と一定期間の代休日の半日出勤により人員を確保し、平成24年度5名、平成25年度4名、平成27年度3名、平成28年度3名が参入している。

## 【体制】

現在内視鏡業務に参入している11名の技師（生理検査5名、検体検査6名）のうち、午前に上部内視鏡業務1名、午後に下部内視鏡業務1名、ESD施行日は更に1名の技師を派遣している。

## 【教育体制】

平成25年までの参入技師は看護師による実地研修を行った。その後の参入技師は技師による実地研修に移行した。当院では上部内視鏡、下部内視鏡、ESDの順に研修を行い、約1か月程の研修期間を経て独り立ちとなった。教育内容はチェックリストを用いて、技師間で共有できる体制とした。また、頻度の低い処置の練習や情報の共有を目的として定期的な技師間勉強会を行った。

## 【業務内容】

看護的業務として患者介助・モニターの装着・バイタルサインのチェック、直接介助業務として生検の鉗子操作・ポリープ切除や止血等処置のための各鉗子操作・局注（R3年度～）・色素散布、技師的業務として画像システム管理、内視鏡スコープ培養の実施などがある。その他の業務として内視鏡スコープや処置具の洗浄を行っている。

## 【まとめ】

現在では技師の鉗子操作の技術に医師、看護師ともに強い信頼を得ており、処置で頼られることも多くなった。技師の内視鏡業務参入はマンパワーの確保にも繋がっており、今後も安定的に内視鏡業務に人員を配置できるよう、新たな技師の参入と技師間差のない高い介助技術を維持できるバランスとれた体制を構築する必要がある。

当日は医師・看護師・技師対象のアンケート結果も紹介し、内視鏡業務がタスク・シフト/シェアの推進をきっかけとした技師が活躍できる業務拡大のチャンスであることを理解していただく場としたい。

磐田市立総合病院 臨床検査技術科  
0538-38-5000(内線 2600)